

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成18年10月3日(火) 5校時
児 童 男子4名 女子6名 計10名
指導者 赤坂洋子

1 単元名(教材名)

だいじなところに気をつけて読もう(サンゴの海の生きものたち)

2 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、説明的な文章を「読むこと」については、「たんぼぼのちえ」の学習で、順序に気をつけて読むことを学んだ。読み取りの際には、「いつ」「何が・どうなる」という視点で、たんぼぼの時間的な変化の順序を、「ようす」と「わけ」という視点でたんぼぼが仲間を増やす知恵を読み取り、それを「たんぼぼカード」にまとめる学習を行った。

本学級の児童は、読み物に興味を持って読書している子が多い。物語がその中心だが、国語や生活科の学習などでは身近な動植物の本にも興味を持って読んだり、その内容をカードに書いたりしている。音読に関しては、ほとんどの児童が語や文のまとまりで読むことができるようになってきている。「スイミー」の暗唱にも楽しみながら取り組んだ。しかし、音読してすぐにその内容を思い描ける児童ばかりではなく、理解するためには繰り返しの必要な児童もいる。叙述に即して読み取ることに 대해서는、視点を決めて読む練習を繰り返す中で、漠然とした読み方ではなく、どこに気をつけて読めばいいのか、考えながら読めるようになってきている。

(2) 主たる指導事項

「読むこと」における本単元の指導事項は、「易しい読み物に興味を持ち、読むこと」「事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」「語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと」である。その中でも中心となるのは、書かれている事柄の順序を考えながら読むことである。

そのために、簡単な文章構成をつかませることが大切となる。形式段落を、問いかけの部分、一つ目の事例、二つ目の事例、まとめという4つの大きなまとまりに分け、その文章構成を把握してから読み取る活動を展開する。また、読み取りの際には、問いかけの部分を視点とし、それに沿って二つの事例を読み取っていくことが大切となる。そして、内容を読み取るために何度も音読を繰り返したり、読み取った内容を自分なりにまとめたりすることが、視点をもって読み調べ、事柄の順序を考えながら読むことにつながると考える。

(3) 指導に当たって

教材文「サンゴの海の生きものたち」は、サンゴの美しい海の中での生き物の共生について説明している文章で、児童にとっては、聞き覚えのある生きものたちについての新しい発見が多く、楽しく読み進めていくことができる教材である。文章構成は、最も基本的な組み立て「はじめ」「中」「おわり」になっている。「はじめ」の部分は「たがいに、やくに立つようにかかわりあって」くらしている生き物たちがいることを知らせていて、この言葉がこの文章全体のキーワードになっている。さらに「どんな生きものたちが、どんなにかかわり合いをしているのでしょうか。」と続く課題文が、文章を読み通す視点となっている。「中」では共生の例として、「イソギンチャクとクマノミ」「ホンソメワケベラと大きな魚たち」の二つの具体例が挙げられている。イソギンチャクとクマノミは毒の針と威嚇音という体の仕組みによって互

いに外敵から守りあう関係である。また、ホンソメワケベラと大きな魚たちは、ホンソメワケベラがしている「そうじ」が、食べ物を得たり健康を保ったりする互いの利益になる関係である。「終わり」では、文章全体のまとめとして、話題に対する結論が述べられている。

今までの説明文では、一つの対象を順序に気をつけて読んだり、対象が複数でも比べて読んだり、違いを考えながら読んだりしながら、説明文の読み方の基礎を学んできた。しかし、この文章では、登場する複数の生き物の中から主要なものを見分け、そのいくつかの内容を関連付けてかかわり合いを読み取る必要があるので、児童にとっては、比較的難しい内容である。

そこで、指導に当たっては、次のことに留意したい。

- ア 言葉や文の意味を十分に思い描けるよう、すらすら読めるまで音読に習熟させる。
- イ 視点を持って音読する回数を増やし、調べるために文章に立ち返ることを習慣付ける。
- ウ 第1段落で「たがいに、やくに立つようにかかわり合っている」ことを丁寧におさえた上で、「どんな生き物が、どんなにかかわり合いをしているのか」という視点に沿って、文章を読み取らせる。さらに具体的に「どの生き物が」「何をしているのか」「それは、どんな役に立っているか」という視点でかかわり合いを読み取らせる。
- エ 教科書の写真を手がかりにして、生きものの特徴や様子、かかわり合いについて正確に捉えさせる。
- オ 視点を持った読み方が定着するように、1時間の最後に振り返りの活動を行う。「お礼のお手紙」という形でかかわり合いについて自分でまとめさせ、一人一人の力を高める。個別の支援もこの時間を中心に行う。
- カ 「海の生きものブック」を作ることを活動のめあてとして意欲付けを図りながら、自分でも興味をもって調べ読みができるよう、子ども向けの本や水族館のホームページ資料を準備し、紹介する。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・海の生きものについての読み物に興味をもって読もうとする。

(2) 読むこと

- ・サンゴの海の生きもののかかわり合い方について、事柄の順序を考えながら読むことができる。
- ・語や文のまとめや内容を考えながら、声に出して読むことができる。

4 単元の評価規準 (B)

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・海の生き物に興味をもち、それぞれのかかわり合いを読み取ったり、他の本を探して読んだりしようとしている。

(2) 読むこと

- ・海の生きものの特徴や様子を読み取り、それを活かし互いに役に立っていることを、事柄の順序を考えながら読み取っている。
- ・語や文のまとめや内容を考えながら、しっかりと声で読んでいる。

5 学習指導計画（10時間扱い）

段階	学習課題	活動計画（時間）	評価規準（B）
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 初めて知ったことや不思議だなと思ったことを発表しよう。 すらすら読めるように練習しよう。 学習のめあてをもとう。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真を見て話し合い、サンゴの海のイメージを広げる。 全文を読み感想を持つ。（1時間） 意味のわからない言葉を調べる。 ペア音読をする。 漢字・カタカナの練習をする。（1時間） 簡単に文章構成をつかむ。 「問い」の文を読み取り、学習の計画を立てる。（1時間） 	<ul style="list-style-type: none"> 関 全文を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことなど感想を書いている。（ノート） 読 語や文のまとまりを考えながらしっかりと声で音読している。（観察） 読 出てくる生き物に着目しながら4つの大きなまとまりに分け、本文を読み通す「視点」をつかんでいる。（ワークシート）
とらえ・ふかめる	<ul style="list-style-type: none"> イソギンチャクやクマノミはどんな生きものだろう。 イソギンチャクとクマノミはどんなかかわり合いをしているのだろう。 ホンソメワケベラと大きな魚たちはどんなかかわり合いをしているのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取る。（1時間） イソギンチャクとクマノミがどのように関わり合っているのかを読み取る（1時間） ホンソメワケベラと大きな魚がどのようにかかわり合っているのかを読み取る。（1時間：本時） 	<ul style="list-style-type: none"> 読 イソギンチャクやクマノミの体の特徴を読み取っている。（サイドライン、発言、ワークシート） 読 イソギンチャクとクマノミは、毒の針と威嚇音によって互いに守り合っていることを読み取っている。（サイドライン、発言、ワークシート） 読 ホンソメワケベラと大きな魚は、そうじを通して、食べ物を得たり健康を保ったりしていることを読み取っている。（サイドライン、発言、ワークシート）
つかう	<ul style="list-style-type: none"> 海の生き物についての本をさがして読もう。 「海の生きものブック」を作ろう。 海の生きものブックを読み合おう。 	<ul style="list-style-type: none"> 海の生き物についての本を読む。（1時間） 生きもの名前や特徴、かかわり合いなどを絵と文でまとめる。（2時間） 「海の生きものブック」をお互いに読み、感想を交流する。（1時間） 	<ul style="list-style-type: none"> 関 海の生き物に興味をもち、進んで本を探して読んでいる。（観察） 読 生き物の特徴やかかわり合いについて読み取り、まとめている。（海の生きものブック） 関 友達の書いた「海の生きものブック」を楽しく読み、感想をもっている。（観察・発言）

6 本時の指導

(1) 本時と仮説とのかかわり

説明的文章の学習指導において、子ども一人一人が自ら読みの視点を持つことができる学習活動を工夫し、その定着を図るための振り返りを取り入れていけば、「読むこと」の力が高まるであろう。

本時は、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて読み取る学習を行う。この事例の説明の中で繰り返し出てくる「掃除」という言葉がキーワードである。ホンソメワケベラが行う「掃除」という行為は、ともすれば一方的な奉仕に見られ、お互いの利益になっていることがとらえにくいと予想される。その掃除がお互いの役に立っていることを読み取らせるには、「掃除をしてとった虫が、ホンソメワケベラの食べ物になる。」ということを理解する必要がある。

そこで、本時では、場面の様子を具体的に思い描くことができるようにするため、次のような活動を設定した。

ア 目的を持った音読を繰り返し行う。

イ ホンソメワケベラの体の特徴を読み取るために、サイドラインを引かせる。

ウ ホンソメワケベラや大きい魚のかかわり合いについて、「したこと」「どんな役に立っているか」という具体的な視点を与えて、読み取らせる。

エ 話し合いの場面で、写真と対比させたり、ペープサートを操作させたりしながら、言葉の意味を具体的にイメージさせる。

オ 振り返りの場面で、「してくれたこと」「役にたったこと」について、重要語句を使いながら「お礼のお手紙」にまとめさせる。

(2) ねらい

ホンソメワケベラと大きな魚たちとのかかわりあい方について、事柄の順序を考えながら読みとることができる。

(3) 展開

段階	学習活動	時間	指導上の留意点・評価
つかむ	1 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。 </div> 2 意味段落三を音読する。	5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> かかわり合いを調べるには、「どの生き物が、何をして、どんな役に立っているか」を調べていくことを確認する。 </div>
ふかめる	3 ホンソメワケベラと大きな魚の関係を読み取る。 (1) 形式段落 からホンソメワケベラの体の特徴を読み取る。 (2) 形式段落 と から、ホンソメワケベラと大きな魚が掃除を通してお互いの役に立っている関係を読み取る。	25分	・色・模様・大きさといった体の特徴にサイドラインを引かせ、写真のどちらの魚かを確認する。

ふかめる	<p>・ホンソメワケベラと大きな魚がしていることは何か調べましょう。</p> <p>・そうじは、大きな魚とホンソメワケベラにとってどんな役に立っていますか。</p>	<p>・「していること」に気をつけて、音読させる。</p> <p>・「していること」について自分でサイドラインを引いたら、ペアで話し合わせ、発表させる。</p> <p>・大きな魚のしていることは、文中に、明確な表現がない分、ホンソメワケベラを食べずに口をあけて掃除をしてもらっている様子を、文の表現と写真から明らかにする。</p> <p>評 ホンソメワケベラと大きな魚の、していることを読み取っている。(サイドライン、発言)</p> <p>・「役に立っていること」に気をつけて、音読させる。</p> <p>・大きな魚とホンソメワケベラの両者の立場から、役に立っていることを考えて、サイドラインを引かせる。</p> <p>・全体での話し合いでは、主観的な子どもの思いだけにならないよう、表現と結びつけながら読み取らせていく。</p> <p>評 ホンソメワケベラと大きな魚にとって、役に立っていることを読み取っている。 (サイドライン、発言)</p>
まとめる	<p>4 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわりについて、お礼の手紙にまとめる。</p> <p>5 まとめの音読をする。</p>	<p>15分</p> <p>・吹き出しにそれぞれの生き物が何をしてもらってどんな風に役に立っているのかをお礼の手紙として書かせる。</p> <p>・読み取りが不十分な子には、個別指導を行う。</p> <p>評 ホンソメワケベラと大きな魚の、掃除を通したかかわり合いを読み取っている。(ワークシート)</p> <p>・重要語句を消した板書で確かめの音読をする。</p>

(4) 具体の評価規準

A ホンソメワケベラと大きな魚は、そうじを通して、食べ物を得たり健康を保ったりするかかわり合いをしていることを、していることと役に立っていることを結びつけながら詳しく読み取っている。

B ホンソメワケベラと大きな魚は、そうじを通して、食べ物を得たり健康を保ったりするかかわり合いをしていることを読み取っている。

努力を要すると判断された児童への具体的な手立て

サイドラインを引いたところに気をつけて音読をさせた後、個別に視点に沿って教科書の文を確認していく。

